

ゆり支援学校高等部 地元食材を使用 自慢の商品PR**直売所でジャムなど販売**

由利本荘市のゆり支援学校（近藤千晴校長）高等部の生徒が6月30日、同市石脇の藤原農園直売所で地元の食材を使ったジャムや菓子などの販売会を行った。食品加工班の1、2年生6人が店頭立ち、自慢の商品をPR。訪れた地域住民と交流を深めた。

「手作りのジャムはいかがですか」「いらっしゃいませ」。

学校名を記したのぼり旗を手にした生徒が店頭立ち、元気な声で買い物客を呼び込んだ。

開店前にはチラシを手に近隣の住宅を回り、集客を図った。

店頭にはいちごジャムや「いちじく南蛮味噌」、干しシイタケ、ブルーベリーソースとイチジクが入ったレアチーズケーキが並んだ。

地元産のイチジクやこうじ、しょうゆに、学校で育てたトウガラシとピーマンを使って作った南蛮味噌は2021年度に商品化。生徒は「ご飯はもちろん、パンに塗って食べるのもおいしいですよ」と熱心にアピールした。訪れた住民が次々と買い求め、売り切れる商品もあった。

2年の佐々木愛莉さん（16）は「手作りでどれも自信を持って薦められる商品。たくさん売れ、お客さんとやりとりができて楽しかった」と話した。

ゆり支援では、今後、石脇の発酵小路「田屋」でも販売会を計画。生徒が手がける商品は学校でも購入できる。問い合わせはゆり支援学校 ☎0184・27・2630 （長田雅巳）

（令和5年7月5日（水）秋田魁新聞より一部抜粋）